



宗田 晃 SODA, Akira

私は「人の在り方について考える」というテーマで、一貫して制作してきました。芸術には人を世界に向き合わせさせる力があります。そして人は、作品を通して自身の外的世界と内的世界に向き合うことで、様々なイデオロギーにも縛られない、個別の存在としての力強い未来への可能性を見出すと考えます。それは、絶え間なく迫られる人生の選択「生きる」ということを決定する力です。

個別存在としての倫理観と道德観の成長。そこからの、それぞれの「生きる」に対する可能性の拡大。これこそが、芸術の社会的生産性であり存在意義であります。

私の作品は「人」という存在を考え理解していくことによって、今後の我々の未来にポジティブな可能性を見出すというのがテーマです。

これから展開していこうとしている作品は、民話や童話などの既成の物語の文脈を利用して、自分なりの解釈をイメージに変換し、人間存在について断面的にでも提示しようという試みです。

既にある「物語」という共通理解をベースとし、自己の新たなイメージとして作品を創造する。人の普遍的価値観と、時代や文化が生み出す新たな価値観を検証し、鑑賞して頂く方々の「生きる」について、少しでもプラスになる出会いを生み出せたらと思います。

この作品は、物語として「赤ずきん」を利用しています。